



第163号  
令和3年6月30日  
能代市教育委員会  
学校教育課  
創刊  
昭和42年10月10日  
題字 元能代市長  
鎌田 宏

### 巻頭言



## 愛情論

淳城南小学校長  
伊藤 互

【初任校でのこと】3年目、小4の学級担任となった。教師の指示が伝わるのに時間のかかる寡黙な男子児童がいて、自分の態度は日ごとに厳しくなっていた。落ち着いて分析した際、愛情不足も一つの原因であると推測された。学年主任に相談したら、「愛情不足と思うのだったら、教師側から積極的に手や目をかけてみたら」とアドバイスを受けた。

次の日から、認め、ほめる場面を多くし、継続した。秋の校外学習での「コマ、その子が無言で寄ってきて一緒に歩こう」という雰囲気を手を握ってきた。私は感動で心が震えた。

【中学校でのこと】20代後半で

の学級担任。変な慣れが出てきて、酒席で教頭先生に「あの生徒は指導しても、あまり…」と生意気な愚痴をこぼしたら、「教育とは、流水に文字を書くが如し。されど岩壁に文字を刻むが如く行うべし」と諭され、問題行動を起こす生徒に愛情を注いでいなかった自分を恥じた。

【愛情タンク】ある先輩から、「人間の心には胃袋のような愛情タンクがあり、それが満たされないと様々な問題行動が出てくる。だから、子どもたちには認め、ほめるなどの愛情をたっぷり注いでほしい」と伺った。

【番外編 私の胃袋】ビール、冷酒、それに美味しい肴という愛情が入れば上機嫌。満たされないとググーと切ない音で訴えてくる。

愛情の力は偉大なり！



浅内小学校  
教頭 湊 正人

### 「秋田の探究型授業」に学ぶ日々



本校では「秋田の探究型授業」の基本プロセスに基づき、今年度から「Action」を合い言葉に授業における話し合い場面の質の向上を目指しています。

小松知優先生は他県での教員経験のある若手です。授業参観で目にした話し合う能代の子どもの姿

に感動して以来、自学級での具現化に邁進しています。4月からは複式学級担任として、「話し合い」のためには改めて学習の見通しをもたせることが大切だと考え、時間管理や本時の流れ、子どもとのゴールの共有、魅力ある課題づくりに努めています。「秋田の探究型授業」に日々学び、タブレット等の活用も積極的な小松先生の前向きな姿が「Action」の共通実践につながっています。

### 輝きの場面



1年生 朝顔の観察  
タブレットを使って記録しよう！  
淳城西小学校

## これが私の指導法 ～知的財産の継承～

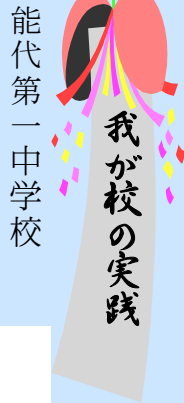


二ツ井中学校  
教諭  
岩澤 由香

「先生、喜びの歌が吹けた」「声が重なる」とツッチャかっこいい曲になるね」生徒が何気なく話す言葉に嬉しさを達成感を感じます。  
楽器の演奏が苦

手、内容が分からないから嫌いという生徒も多いのですが、少しでも音楽の授業を好きになっただけという思いで、授業をしています。その中から、2年生の実践「パートの役割と重なり方」翼をください」を紹介します。  
中学校で初めて、この曲の3部合唱を扱います。誰もがすぐ主旋律を覚えてしまうので、合唱として歌わせるには意外に手こずる教材です。でも、パートリーダーのアドバイスや繰り返し練習で、計画的に合唱に仕上げていきます。

パートの役割や音の重なり方については、旋律の特徴を、音楽を形づくっている要素と絡めて考えます。歌いながら旋律の特徴を確かめ、意見交換や確認をていねいに行います。生徒のつぶやきを拾い、考えを広げたり理解を深めたりする過程を大切にしています。いい発言はたくさん褒めてあげます。  
その後、どのように工夫して歌いたいのか自分の考えをもたせました。「ユニゾンなので、歌い出しや音程を揃える」「伴奏の低音



能代第一中学校  
教頭 佐藤 政彦

### 覇気ある生徒の育成を目指して

本校では、校是「覇気」の精神のもと、よりよく生きる力を高め、将来にわたって「自分なりの幸せ」を追求できるようにすること、ふるさとを愛し、高い志をもって地域・社会を支えていくことができ、生徒の育成を目標とし、次のような共通実践に取り組んでいる。

#### ①受容と共感に注げる集団づくり

○授業における温かい認め合いをベースとして、積極的に発表しようとする意欲を引き出すため、他者への受容、共感、反応、肯定を

学習ルールとして定着させる。

#### ②分かる授業、活気ある授業づくり

○「学び合い」を中心に据えた、後半重視型授業を展開するために、前半をコンパクトにすることや自分の考えを確実にもたせること、学び合いに耐えうる学習課題であること等を重視して授業全体の質を高める。  
○「横のつながり」からゴールに至る、「分かた」を実感する授業づくりのために、自分の考えの出し合いで終わらない。そこからどういう手法で学びを深め、何に気付かせるのかを明確に意識し、生徒自身の言葉でゴールに到達させるようにコーディネートする。  
○「ICTを活用した授業改善支援事業」の指定を機会として、「秋田の探究型授業」を効果的に進め、ねらいを達成するためのツールとしてのICT活用方法を研究、発信する。

#### ③地域を見つめ、未来社会の創造へ

○伝統文化を受け継ぐ、新たな「一中若」のあり方を検討し、総合的な学習の計画見直しと持続可能な一中若活動を目指した新たなスタンダードをつくる。これらをベースに、生徒が笑顔溢れる学校生活ができるよう、職員一同も笑顔と元気で共に頑張ります。



### 編集後記

GIGAスクール元年の今年、市内各小中学校でもタブレット端末を活用した授業が行われています。初めて使用する子どもたちはワクワクですが、先生方はドキドキです。教員向けのタブレット研修会後のアンケートから、指導に不安を感じている先生が少なくないことが分かりました。  
教師という職業柄、「全て自分が覚えているから児童生徒に教えないければ」という気持ちが強くなり、タブレットの機能や使用方法を、子どもたちより先に全て覚えてから指導しようと考えがちです。しかし、その段階までたどり着くにはかなりの時間を要するものです。慣れるのが早い児童生徒から、時には教えてもらいながら「子どもたちと一緒に学んでいく」というスタンスが大切だと考えます。  
本紙一面の写真のように、タブレットを使いながら意欲的に学ぶ児童生徒の姿を目指し、今後も効果的なICTの活用方法を探っていきたいと思っております。今年度第1号の発行に当たり、玉稿をお寄せくださった方々に心から感謝申し上げます。  
(H)

のリズムが弾んでかっこいいから、強く歌って盛り上げたい」など、自分の考えをもって合唱につなげました。振り返りの合唱では、主旋律が響く、サビに向かって強弱の変化が分かる合唱になりました。生徒たちが変容に気づいた1時間でした。  
「授業後は、学習した曲を口ずさみながら教室に戻る」これが、音楽科の授業で私が目指す生徒の姿です。この日も廊下から「翼をください」が聞こえてきました。